

# ポニーと自然と共に 成長続ける子どもたち



鳥取市街地を眼下に見下ろす空山ポニー牧場。澄み切った空気が緑豊かな大自然を背に、ポニーと子どもたちのさまざまな「触れ合いドラマ」が繰り広げられている。

ポニーに乗り、世話をしながら、野山を遊び場に伸び伸びと走り回る子どもたちと、その光景を温かく見守る空山ポニー牧場のスタッフや保護者たち。達成感や満足感を得ながら、子どもたちは最高の笑顔を浮かべ「楽しい！」。

■感動体験の評判が全国各地へ  
こうした喜びや感動体験を繰り返しながら、子どもたちは成



NPO法人  
「ハーモニカレッジ」  
の事例

長。「鳥取の空山ポニー牧場へ行けば、楽しみながら何かが学べる」。こんな評判が口コミで全国各地に広がっている。

空山ポニー牧場を運営するハーモニカレッジが産声を上げたのは1997年4月。公益財団法人ハーモニセンター（福島県相馬市）にいた石井博史さん（故人）が帰郷、八頭郡八頭町才代の畑約800平方メートル

を牧場にしてスタートした。ポニーの乗馬や世話、自然体験などを通して、青少年の健全育成を行うことなどを主な目的に活動を始めたものの、「仕事」として取り組むには経済的に厳しい時期が続いた。

■思い語り続けたパイオニアの石井さん

それでも、石井さんはコツコツと賛同者の輪を拡大。地元の公民館職員や社会教育の関係者を前に、何時間も熱い思いを語り続けることもあった。「お金より大切なものがある。人づくりに情熱を傾けたい」

石井さんの熱意は、少しずつながら地元の人たちの心を動かし、会員も徐々に増加。2004年には県や公益財団法人県畜産振興協会の支援もあって、それまでの10倍以上の広さになる約1万平方メートルの面積に、2カ所の馬場（ばば）と馬房（ばばう）などを備えた空山ポニー牧場を開設した。

■不登校児童・生徒も笑顔取り戻す



前理事長の石井博史さん（写真右）

具体的な成果も表れ、石井さんの自宅に寄宿していた不登校児童・生徒の多くが通学できるようまでに成長。社会参加するようになったという。

子どもたちの人格を尊重し、自主性や長所を引き出す石井さんの教育方針と実践例にマスコミも注目。執筆や講演依頼も相次ぐようになり、「ヒロさん」と多くの人が慕った。

だが、その石井さんも志半ば

で病に倒れ、2011年9月、惜しまれながら59歳の若さで亡くなった。葬儀場には400人も人が参列。石井さんとの別れを惜しんだ。

理事長の後を引き継いだのは、常に石井さんを支え続けた大堀貴士さん（40）。ボランティアで社会教育活動に打ち込んでいた大阪工業大学4年の時、石井さんと出会い、「体全身からあふれるように夢を語る



姿に接し、自分もこんな大人になりたいと思いました」。

石井さんの魅力に引き付けられるように鳥取県に移住。ハーモニイカレツジの現場スタッフとして汗を流してきた。

理事長になってからも石井さんの思いを基本に運営。大堀さんならではの考えも加味しながら、子どもたちを指導している。

■「やり尽くす」意欲を重視

その指導は、「こうしなさい」といった抑えつけるような言い方でなく、子どもたちの「やりたい」「やり尽くす」という意欲を重視。

野外の遊び時間のケースでは、「気持ちを満たす」まで子どもたちは遊びに熱中。大人はそれを見守りながら、大堀さんからスタッフがその意欲の段階ごとに、子どもたちに応じた課題を投げかけるようにしている。

「一つの『やりたい』という思いを達成した後、次の『やりたい』という欲求を実現するためにはどうすればよいか、を考えてもらうようにしています」。

最終的に「やり遂げた」といった達成感や満足感を子どもたちが感じ、自信を持ってもらえればと思っています」

大堀さんたちスタッフの愛情を背に、子どもたちは工夫を重ねながら知恵を出し合い、「欲求を満たすために」連携。自然とチームワークや思いやりの気持ちなどが育まれているという。

■口コミで広がる支援の輪

こうした成果や「参加して良かった」といった感想が、口コミやインターネットを通じて広まっており、ハーモニイカレツジの会員数も少しずつながら増加。現在約400家庭が会員登録している。

会員の増加とともに事業収入（ポニー教室の開催など）も徐々にアップ。寄付金も毎月のように寄せられている。

思うような収入が見込めず、「ポニーの餌代がなかなか払えない時もあった」が、支援者の増加は経営面で大きなプラスになっている。

■鳥取のポニー牧場をアピール

ハーモニイカレツジは、さらなる支援者の拡大に向けてPR活動や事業内容の充実に努めており、関西の社会教育関係者やボランティアに取り組みむ青少年との交流など、県外でのイベントにも参加。「鳥取のポニー牧場」をアピールしている。

さらに、保護者のグループの育成にも尽力。食事会などを開催しており、子どもと共に乗馬を楽しむ保護者も増えている。

だが、さらに支援者を増やすためには、時代の変化に合わせる活動内容を充実させていくことが必要。現在、行っている空山ポニー牧場で開催のポニー教室、校庭や地域の公園などを会場に開いている出張ポニー教室などに、どう新しい魅力をプラスしていくかが問われている。

■盛り上がるポニーキャンプ

そうした中、空山ポニー牧場以外でもさまざまな行事を実施。中でも、最も盛り上がるのが、春・夏・冬のポニーキャンプ（2〜5泊）だ。

古民家や研修施設を利用して行っており、昨年の夏休み





満ちた小夏がいた」

■ポニー体験機に地元の大学へ

2014年の冬。空山ポニー牧場は雪で覆われる日が多くなった。8頭のポニーがエサを食べる馬房では、スタッフや青年ポランティアらが忙しく世話をしている。水の冷たさや外の寒さを吹き飛ばすように、笑顔でポニーたちと接している。

ポランティアの中には、県外出身で小・中学生時代に空山ポニー牧場で体験した感動がきっかけで、鳥大や環境大に入学した学生もいる。

土曜、日曜ともなれば、ポニークラブに通う子どもたちの歓声に包まれる。そんな時がポランティアにとって最も楽しくなる瞬間だ。

「完成のない牧場」として、私たちハーモニカレッジも子どもたちと同じように日々、成長していきたい」

優しさの中にも強い信念。石井さんから引き継いだ「夢」は大堀さんの心にもしっかりと引き継がれ、進化しながら日々形となつて、将来に向けて伸び続けている。



キャンプでは計7回のキャンプに延べ157人の小・中学生と79人の青年ポランティアが参加した。

笑いあり、涙ありの感動シーンが数多く見られ、青年ポランティアたちはその感想を、ハーモニカレッジ情報誌「ポニーエクスプレス」につづっている。

「シーサイドAキャンプ」の事例を紹介したのは竹内志織さん（大学2年生）。

「初日、夕飯での出来事。…『シクシク』と泣き声が聞こえてきた。初参加で最年少の小夏（小学1年）。…周りにいたチーちゃん（小学2年）と沙奈（小学3年）、りあ（小学3年）が心配そうに寄ってきた。『私もキャンプ初めての時は、寂しくて泣いた。でも、みんながいるから大丈夫だよ』と励ましていた。夜、泣きながら布団に入った小夏を挟んで、3人は仲良く横に並んで寝ていた。少ししか年が離れていないのに、自分より年下の子がいるだけで、小さいお姉さんたちはちよつと強くなっていた。…その後、小夏は弾けるような笑顔でサーフィンを楽しんでいた。…そこには1日目とは違う、自信に



代表者のコメント

理事長 大堀貴士さん

「完成のない牧場。として、ハーモニカレッジを常に進化し続ける牧場にしていきたいと考えています。献身的に支えていただいている保護者や会員の皆さまには大変感謝しており、多くの皆さまの期待に応えられるよう、ハーモニカレッジをさらに発展させなければと思っています。そのためには常に内容を充実

させ、「参加して良かった」といった感想が口コミやインターネットを通じて広まるようにしていきたい。会員数も少しずつながら増加していますが、ハーモニカレッジを大きく飛躍させるために、PR活動や事業内容の充実にも、仲間の輪を広げていきたいと思っています。

NPO法人 ハーモニカレッジ

〈概要〉 ●所在地:事務局=八頭郡八頭町才代299  
空山ポニー牧場=鳥取市越路大谷752-1

- 代表者:大堀貴士
  - 事業内容:動物や自然を媒体とした、青少年の健全育成、社会教育の推進などを主な目的に、ポニープログラムや自然体験プログラム、教育をテーマにした講演など
- TEL 0858-72-2468 FAX 0858-72-2680  
ホームページ <http://www.harmony-college.or.jp>

